

1 4 . 繁殖管理システムによる繁殖雌牛の個体管理指導

北部振興局

○高野太志・宮内美香・林佑亮

1 取組の内容

繁殖牛を繁殖管理システムで管理し、妊娠鑑定可能牛、分娩予定牛、発情予定日等の母牛繁殖状況や子牛市場成績、繁殖成績等を数字で把握、農家と情報を共有しながら、効率的な繁殖雌牛の個体管理の取り組みを実施。

2 繁殖管理システム

表計算ソフトエクセルのVBA機能を利用して作成した「繁殖管理プログラム」とNCCの「moopad」を利用。

3 指導内容

農家巡回により、授精（年月日・種雄牛）及び分娩（年月日・雌雄・状況）を農家から聞き取って入力するとともに、家保の実施する妊娠鑑定に立ち会いその結果を入力。

授精等の聞き取り時に農家と情報を共有しながら、フレッシュチェック、早期授精、発情予定日、早期妊娠鑑定、分娩準備等の指導を実施。妊娠鑑定対象牛がいれば、農協に連絡して確実に受診。

定期的に母牛繁殖状況一覧を送付し、現在の状態（妊娠・分娩後40日以内・発情警戒）、今後の予定（妊娠鑑定・分娩・子牛離乳・初回発情・治療）の指導を実施。

分娩予定日が近い繁殖雌牛のいる農家を巡回し、分娩があれば、次回発情を促進させるために、ビタミン剤の投与を実施。

雌が生まれた場合は血統や大きさにより保留を推進し、保留の意思が確認出来れば、子牛での除角を推進。

また、農家自身での記帳を促すために、「繁殖雌牛個体管理表」や「繁殖カレンダー」を牛舎等に設置。

「moopad」は入力難しい生産者や入力の遅れる生産者に対し、入力代行（支援）や、入力方法の指導を実施。

4 成果

農家と繁殖情報を共有することで、「繁殖雌牛個体管理表」等への記入も促進され、授精や分娩の連絡もあるようになり、発情発見等の意識も高まった。

分娩間隔は407日（R3/1/1～R3/12/31）が399日（R4/1/1～R4/8/31）となった。